

第1回 西部緑地公園再整備構想検討委員会 議事録

日時： 令和4年8月25日（木）10時30分～12時00分

場所： 産業展示館3号館内会議室

出席者： 会議資料「出席者名簿」のとおり

1. 開 会

2. 知事挨拶

3. 検討体制について

（事務局から会議資料「検討委員一覧」「検討委員会設置要綱」に基づいて説明）

4. 説明事項

・西部緑地公園の現状と課題

（事務局から会議資料1に基づいて説明）

・公園整備・管理の最先端

（町田委員から会議資料2に基づいて説明）

・公園再整備に向けたディスカッションメモ

（浦橋委員から会議資料3に基づいて説明）

5. 意見交換

【鐺委員長】

それでは、これまでの事務局からご説明、それから町田委員及び浦橋委員のご説明、それに対してのご質問或いはご意見、再整備に対する期待等含めてご発言いただければと思います。どうでしょうか。はい、それでは桂田委員お願いします。

【桂田委員】

今日、皆様、事務局様からのご説明、そして町田委員、浦橋委員から最先端のご説明をいただき、委員ながら今一番進んでいる状況がどこにあるかということが、改めて理解ができましたことにまずは御礼を申し上げます。

そして、馳知事からも、石川県の個性らしさも含め、色々なものを詰め込んでいきたいというコメントをいただき、委員の1人としてこれに出来るだけ応えていけるよう、何とかコメントしていきたいと思っております。よろしく申し上げます。

私は、現在、スポーツ施設とかの色々な検討委員会に入れさせていただいております。その中で、この西部緑地公園というところの感想と、このように皆さんにご検討いただけないかということ、事務局様にお願いしたいことについて発言させていただきます。

西部緑地公園、今朝、車で乗ったり降りたりしながら色々で見させていただきました。非常に多岐にわたる施設が、そして、もうこの40年ぐらいの蓄積で色々な施設が段階的に整備されているところも理解できましたが一方であれっと思ったのが、実は今日1時間周ったんですけれども、周っている時に皆さんも気づいたんじゃないかと思うんですが、今日の教育関係のイベント以外に誰も施設を使っている人がいなくて、そこがちょっと私、逆にびっくりして、平日だからなのかとも思いつつ、この施設をもしかしたら県民の方が日常的に使うという認識になってないんじゃないかなと思いました。そこでお願いしたい部分があり、事務局様の方で、私も町田委員

とか浦橋委員のような、新しい最先端のものがデジタルも使って実現すればいいんだと思うのですが、一つは事務局から県民の方に、この公園の中でどういう機能とか、どういうスポーツをして欲しいかっていうところを、ここは委員として述べなきゃいけないのかもしれないですけど、まずは県民の皆様の思いもちょっと同時に知りたいと思っています。こういうアンケートとかもしていただけたら、嬉しいと思っています。

二つ目がスポーツデータのところもありましたが、私、埼玉県の方でトップスポーツ施設の養成の科学拠点を埼玉の神尾の方で作るってところの県の委員会の委員もさせていただいておまして、是非北陸のエリアにもですね、まだアスリートとかスポーツ選手をデータを持って育成していくという機能がまだないんじゃないかなと思っています。この機能があれば普段からスポーツに携わる方々が、こういう平日の朝からもこの施設の中に入れてくれるんじゃないかなと思っています、そういうスポーツ科学の英知の拠点としても、この施設が整備されていけばいいのではないかなと思っています。

また、町田委員から手法とかもまた勉強させていただきたいと思っています。長くなりましたが私の発言でございました。以上でございます。

【鏑委員長】

事務局は、一つご質問に対してお答えいただければと思います。

【光永企画振興部長】

アンケートをぜひやっていただきたいというご指摘ご意見いただきました。我々も県民の皆様に使っていただける愛される公園にしていくということを非常に重要だと思っていますので、県民の皆様へのアンケートをしっかりやっていきたいと思っていますし、或いはその県民だけじゃなくて、県外からもお客さんにやっぱり来ていただくということも重要だと考えています。観光で石川県に来ていただいた際に、こんな素敵な公園があるんだったら是非足を伸ばしてみようというようなかたちで来ていただくということも、非常に重要なことというふうに思っていますので、県民それから県外の方も含めて、幅広くアンケートとらせていただいて、またその結果については、この委員会の方でご報告させていただきたいというふうに思います。

【桂田委員】

ありがとうございます。

【馳知事】

私からもありがとうございます、県民アンケートはぜひやりたいと思いますし、このデータでアスリートを育成すると。これナショナルトレーニングセンターでも、ハイパフォーマンススポーツセンターで実際にやっています。私はその北信越の拠点をここでやるという試みも一つの選択肢にしたいと思っています。加えて、国がハイパフォーマンススポーツセンターでやっているナレッジは、国民に吐き出さないと意味がないというのが私の考えでありますし、改めて、石川県でそれをやりながら、それはトップアスリートのものだけではありませんし、ジュニアアスリートの健全な育成という部分も含めれば、また、一般の方々がデータをもとに自分の健康管理をしますということもあれば、もちろんフレイル予防ということもありますけれども、そういったスポーツに関するデータを県民がみんな使うことができる。また、競い合う楽しみというものもありますよね。また、そういったデータが展開されていくというのは、これは今後の公園の楽しみの一つだと思います。

もう1つのウィークポイントとして常に考えなきゃいけないのはアクセスなんです。駅からも遠い。バス路線がやっぱり負担がある。そうすると、どうしても車に頼ってしまうと考えると、今後やっぱり MaaS の展開も含めて、ここを活用していただく県民の皆さん、或いは、いろんな全国大会が展開されていますけれども、金沢駅や最寄りと言えば、西金沢駅などとのアクセスのあり方といったものも考えていかないといけないと思っています。

【桂田委員】

ありがとうございます。アクセスのところもあれと思っておりましたので、そこも加味しなきゃというところは、逆に勉強になりました。ありがとうございます。

【鏑委員長】

はい、青木委員、よろしくお願いします。

【青木委員】

金沢工業大学の青木と申します。よろしくお願いします。本日は、大変貴重なお話を聞かせていただき、方向性も併せて勉強させていただいたというのが正直なところです。両委員にはどうもありがとうございました。

その上で、私は、石川県としての大きなウィークポイントがもう一つあると思っており、その季節といいますか、天候の問題があるのではないかなと思っております。賑わいをこれから皆さんで考えていく時に、季節性の問題というのは、大変難しい問題だと思いますが、やはりギリギリまでこう限界決めずに対応を考えていくということが、賑わいを創出する一番の重要な点になるのではないかと考えています。

先程、事務局の方からも説明をいただいた中に、やはり冬とか、それから夏、それから6月頃も利用者が落ち込むというのはやっぱり長雨の影響なんかもあるんじゃないかなと思ったりしています。もう一つ、何故そこを重要視すべきかと言いますと、実はこれ少し違う話になりますが、メルボルン市の南の端の方、あその季節柄、非常に子供たちも含めて市民の60%近くが鬱状態にある。今のSNSの使い方の問題も多分あるんでしょうけれども、そういう状況にあります。その分それを打開するために、ポジティブ教育というか、そういうものを市民全体にメルボルン大学が取り入れて教育しだしたところ、画期的に改善しているとのこと。私も行かせていただいて見させていただいたんですが、その一つに、先ほどお話いただいたバーチャルランナーとか、それから皆さんご存知なのは、例えばエレベーターじゃなくて階段を使うと音楽が鳴って、ドレミファソラシドみたいになってみたいなのも、ものすごく代表的なそういう施設だと思うんですが、やはりそういう市民、アスリートはもちろん、市民の人たちにも、出来るだけ緑地を使っていただく時には、アスリート以外の人たちの健康をどう保持していくかというような視点っていうのは、間違いなく必要なんだろうと思います。そのためにやっぱりチャレンジしなくちゃいけないのは、石川県の場合は、季節っていうか、天候ではないかなと思っております。単なる感想みたいな話になりましたが、そういうようなことも含めて、また皆さんで考えていただければと思います。ありがとうございます。

【鏑委員長】

ありがとうございます。西村委員お願いします。

んですけれど、祈りの像というものがあるんですね。つまり、原爆ドームを南から見た時に、記念公園から見た時のちょうど背景に当たるものだから、そこはその背景にあたる場所に建てるようにしては、すごく気にされているわけですよ。その意味で、周りにこれが建った時に、どんなふうに見えるかとか、何か大事なものを壊さないかとか、そういう意味で周りとの関係みたいなものも、白山の眺望がどうとかがあってことがあるかもしれないし、そういうこともぜひ留意事項として考えていただければと思います。以上です。

【鏝委員長】

はい。ありがとうございました。皆さんからいただいた中で、アクセス、それから特に動線のことも触れたので、ご専門の高山委員からご意見いただければと思います。

【高山委員】

公立小松大学の高山でございます。この西部緑地公園の特徴は、今ありましたけれど、50数ヘクタールあるという非常に広い公園だということと、その中に多種多様な施設が揃っているということが、まず大きな特徴だろうと思います。

ただ、欠点としては、知事も言われたように、主要駅の金沢駅からのアクセスが非常に弱いというか、ほとんど公共交通のアクセスがないってところが弱点になっていますので、そういうことを考えて今後整備することが一番大事だろうと思います。沢山の色々な施設が入っているということは、しかも、今後のデジタルの話やら他事例にあったような各種施設がこれからいろんな形で入ってくる可能性を考えれば、大きなテーマパーク的に整備していくという考え方で、この施設をとらえるということが、まず一つ大事な点だと思っています。

その上で、それぞれの施設の商圏ってというか、影響圏というか、交通圏といいますか、どれぐらいのエリアから客を呼び寄せることを想定して、計画するのかっていうことも事前に検討しておくことが大事です。そうすれば、それぞれのイベントなり、それぞれの大会の時に、どれ位の人がかかることになるのかっていう予測ができるだろうと私はそう思います。これが1点目です。

あと3つありますが、もう一つは今、西村先生が言われたように公園ができて約50年。ざっと周ると非常に、木が立派に育っているんですね。特に、私が大事だと思ったのは黒松です。黒松の林ってというのは、中々育てるのが難しく、松くい虫で枯れてしまったりするので、そういう意味で、これはなるべく切らないようにしながら再整備を考えて欲しいと思います。これが2点目です。

3点目は、最初に知事の話があった園周辺の交通対策。サッカーだとか野球だとかっていうイベント時に、3万人くらいかいは数万人の規模で観客が集まるとどうしても渋滞になってしまう。年間10日程度だっていう話でしたけれど、この対策はやっぱりここを沢山の人が来てもらうための施設とするために或いは周りに迷惑をかける施設とするためには、重要な点の一つではないかと思っています。少なくとも3本の指に入るぐらいの重要な点かなと考えた時に、今は主要な出入りが2ヶ所しかないんですね。臨時で使うところは1ヶ所ありますけれど、そうすると、どうしてもそこに集中してしまうというようなこともありますので、私はこれだけ広い敷地ですけど、大きな大型店の計画なんか見えていますと、外周にリングロードってというか、外周道路をきちっと整備して、そこに最初に入れて、グルグル回りながら駐車場にアクセスするようなしつらえというか設計、駐車場の計画をしている施設が非常に多いんですね。そういう意味では、やはり多少、公園の中に道路を造るっていうのはものすごく不合理に思うかもしれませんが、うまく配置をして、きちっとグルグル周り、そこから駐車場にアクセスするというか、駐車場の出入りを具体的に作るようにすれば非常に分かり易いのと渋滞対策になると思

います。しかも、リング道路と外部との出入口は、今は2ヶ所或いは3ヶ所ですけれど、最低4ヶ所、5ヶ所ぐらいはつくれる可能性はありますので、そこはきちっと計画を立てれば、今あるような大渋滞の問題は回避できるのではないかと思います。

ただ、やっぱりイベントが終わると、野球が終わると皆んな一斉に帰りたくなりますけど、それは一斉に帰らなくても、この中で楽しめるような施設を作ってもらえれば、例えば食事をして帰るとか、色々なことができると思いますので、一斉に帰らせない仕掛けをこの中に入れるということも非常に大事なかなと思っています。

最後に、この施設を作るとやっぱり40年、50年使わないといけないんですけど、その間にやっぱり20年後、30年後にどのようにこれをリニューアルするかも想定しながら、最初に計画していくということが大事なかなと思います。以上4点。私からの意見です。

【鏑委員長】

ありがとうございました。交通の作り方ですね、公園の一番のやっぱり大事なところって歩行者の人が車と出会わないってところが大きな魅力で、自然もあるってことですよね。ですからそれも含めて、外部との連絡、それから駐車場の車両の処理っていうのを一生懸命考えていただくといいかなと思いました。一斉に帰らないっていうのは、やはり私もツエーゲンの試合を見て、負けるとすぐ帰りたくなりますので、是非強くなっていただくよう県も応援していただくことが必要なかなと思います。

あと、天候の克服ということで、青木委員からいただきました。長谷川委員もやっぱりそういう子育ての中で、やはり天候が悪い時、親子が行くところが少ないっていうのは、この県民の切なる声だと思うんですけど、その辺についてご意見いただければと思います。

【長谷川委員】

子育て向上委員会の長谷川と申します。子育て関係の情報を提供するといった活動を25年続けております。こういった活動をしながら、西部緑地公園にあんなふうに緑地の広場があるんだっていうことを実は全然知らず、今日周らせて貰ってこんなふうに分散して設置されているんだっていうのを今回初めて知ったというかたちです。ですので、情報提供の時にも、西部緑地公園に行ってみようみたいな情報を出したことは1度もなくて、実際今日周ってみた時も、先ほど委員おっしゃられたように、4号館で教育関係のイベントをされている人以外はほとんど人がいないという状態で、本来公園っていう名前がつくのであれば、もう少し人がいてもいいんじゃないかなっていうのは感じたところです。

子育てしていて、この石川県はどうしても雨が多い、それから雪の時期が多いっていう、そういう地域的な特徴があるんですけども、だからこそ、もしかしたら、雨でも楽しめるだとか、雪でも楽しめるっていうような考えも取り入れながら最初から公園整備をしていくことも可能なんじゃないかなというふうに今感じました。というのも、最近、子供の自然体験っていうのが割と盛んになってきていまして、自然体験をしている中では、必ずしも晴れの日ばかりではなく、雨の日には何かそういう体験活動するっていうこともある中で、雨の日でも楽しむことができる、雪の日だからこそ、ここに行ったら面白い経験が出来るというようなものも、もしかしたら取り入れていったら、この地域ならではの公園が出来るのではないかなと思いました。というのは、先月、県立図書館がオープンしまして、これは非常に子供連れに評判が良いんですよね。今まで図書館っていうのは、静かにしなきゃいけない、喋っちゃいけない場所っていうことで、中々子供連れとなると積極的に出向くことが出来ない場所だったんですけども、それがこの図書館では、喋ってもいいよっていうふうなことも大々的に言ってもら

ったことで、すごく出て行きやすくなって、とても評判が良くて、ネットなんかでも凄く話題になりまして。そうすると県民が行く場所だけではなく、遠くからでも行ってみたいという場所になるので、そういった何か、その施設の個性だったりとか、地域の特性を生かすようなことが出来たらいいんじゃないかなというふうに思います。

それから子育てとは全然関係のないところなんですけれども、私今年の5月にニューヨーク行っていて、セントラルパークをウロウロしていたんですけれども、本当にセントラルパークっていうのは、ニューヨーカーのオアシスで、何て言うんでしょう、用事がなくてもそこに行く。西部緑地公園は、本当に用事がないと行かない場所になっているんじゃないかなと思いますので、そういった用事がなくても行けるような場所のあり方っていうのを、もし可能でしたらニューヨークのセントラルパークって視察するだけの意味もあるんじゃないかなっていうぐらい、本当に市民に定着した場所になっていて、そこでみんなが自由にダンスできたりとか、絵を売ったりとか、チェスのテーブルなんかがあって、そこにたまたま行って、そこで出会った人とチェスをするようなスペースがあったりとか、自由にそこで楽しめる場所だったんですね。それで、セントラルパーク内に一万台のベンチがあるらしいんですけれども、そのベンチに名前を入れられるらしいんですよ。養子のことをアダプトと言いますけれども、それをアダプトベンチって言っていて、そこに名前を入れることで、1万ドルだったかな、金額はよく覚えてないんですけれども、1万ドルとか1,000ドルとかお金を払うと、そこに自分の名前を金属の何かでこ埋めることができる。そうすると、また愛着が湧いて、例えば、お父さんがここに名前を入れた場所だとか、おじいちゃんが入れた場所だとか、そういった、またそこに戻るきっかけになるような愛着が湧くことのできる公園になるっていうような側面もありますし、また、それが収益として入ってくるっていうこともありますので、そういった何と言うんでしょう、大きいお金じゃなくて、本当に市民一人一人が、そういうふうにコミットできるような公園になるのもまたいいんじゃないかなというふうに感じました。

それから最後にもう1点なんですけれども、産業展示館の整備検討部会の方でちょっと気になったのが、男性ばかりだになっていうのを感じました。これから50年使う施設となると、やっぱりダイバーシティの視点が非常に大切になってくるかと思うので、部会は動かせないっていう面はあるかもしれないんですが、出来るだけ女性ですとか、外国人ですとか、あと障害のある方とかいろいろな方のご意見がここに反映されるような、そういったかたちになるといいかなと思いました。以上です。

【鏑委員長】

ありがとうございました。それに関連して、町田委員をお願いします。

【町田委員】

少しだけ意見を言わせてください。私も今日見させていただいて、なんかもう建て増し、建て増しで今こういう格好になりましたみたいな、そういう公園になっているんだと思うんですけれども、事務局の方にはお願いしたいのは、一番最初つくるときに、大体その公園のマスタープランを作るじゃないですか。こういうマスタープランでスタートしたんだっていうような、そういうものがあれば、もう何十年も前ですから出てこないかもしれませんが、ちょっと見たいなと思いました。それは、公園の計画技術でいうと、通常、昔の公園は、こういう大きい公園を計画する時、公園の専門家だけ集まっていたんですよ。公園の専門家だけで作って、どういう計画だったのかと思うんですけれども、今はそうじゃないんです。こういうスタイルは凄く良いなと思っているのが一つですね。それから、運動施設だとか、産業関係の施設だとか、部長さんが4人も並んでいるような、こういう色々

な高度な機能が目的化された施設があるような公園って、やっぱり施設の中で股割きっぽくなっていくことがあるんです。スポーツ施設はこの部局で、産業施設はこの部局といったようなかたちで股割きみたいな状態になっているところは、あんまりこう全体として良くなっていかない傾向が見えているんで、そういうところをどうしていくのかな。管理を一元化するようなことも、やっぱり検討していかなくてはいけないなと思っています。

それから、さっきの元々どういう公園の計画だったのかと思ったのと同時に、ご説明の中でここは当面いじりませんかとか、ここは残しますみたいな話がありましたけども、それでは、どこをどう動かし、どこをいじろうとしているか、そういう絵を作ってもらいたいですね。ここを2色に分けて貰って。ここは、いじっちゃおうかなって思ってますみたいなようなことも、最終的にここまでやってもいいですって言うような意思のある図面があると、何かこう議論をしていく上で、どこまでやっていいのかよく分かるのではないかと思います。宜しくをお願いします。

【鏝委員長】

高山委員もありましたけど、50年後100年後を見通したプランも含めて考えるということですよ。多分、昔のプランというのが、僕も見ただけでなくて、多分どっかにしまっているのかもしれないんですけども、またあれば次回にまた見せていただければと思いました。

それから、長谷川委員からご要望のありました男女比の話ですね。是非何か良い形で、いろんな方の意見を聞ける仕組みとして、会議をなんて補強していただくということですよ。それは是非お願いしたいと思います。馳知事どうぞ。

【馳知事】

2点だけ。私もメンバー見たときに、これは女性をもっと3割、少なくとも3割入れなきゃいけないなと思っておりましたが、強く言わずにすみませんでした。これ補強します。これ1点目。

2点目は、やっぱり昭和40年代のときに、やっぱり県として、大規模な西部緑地公園、西部公園という位置付けでしたが、防災の観点もあったということも、ぜひご理解いただきたいと思います。金沢市の西部地区、南部地区と隣接しております。北陸高速道金沢西インターに直結しています。そういった観点から防災、特に大雪が降った時に、雪を沢山ここに持って来ていただくとう観点では、金沢市ご当局にもご理解いただいて、ここに除雪した雪を沢山持って来て下さいというご案内もしておりますので、防災のやっぱり観点もあって、こういうしつらえになってきたという背景もございます。改めて、そういう観点もまたご理解いただきたいと思います。

【鏝委員長】

ありがとうございます。そうしましたら、浦橋委員、もし何かこう、今までの意見の中で、ご意見あればと思いますけども。

【浦橋委員】

そうですね。やはり、独自性というか、オリジナリティがすごく大事だなと思っていて、そうなるのとやっぱり先ほどお話のあったウィークポイントっておっしゃっていましたが、天候問題みたいな話。逆にそれを強みに変えてくみたいなお話もあったと思っていて、そういった地域性といいますか、その辺り、私自身も色々勉強させていただいて、どこにその強みを持つかといったようなところを、一緒に議論させて今後も

いただければというふうに思いました。ありがとうございます。

【鏝委員長】

ありがとうございます。金沢市からご出席の村角委員。ご意見いただければと思いますが。

【村角オブザーバー】

オブザーバーという形で金沢市から参加させていただいております。都市制作局企画調整課の村形と申します。まずは冒頭知事からも、ご発言ありました県市の連携ということでございますので、それをさらに深化するためにも、この会議の内容等につきましては関係課との庁内での情報共有も、しっかりとしていきたいなというふうに思っています。

オブザーバーという立場ではございますので、どこまで発言すればいいのかという微妙なところでございますが、感想だけひとつ述べさせていただきたいと思います。これはもしかすれば、いち市民の目線からということにもなるかもしれませんが、やはり交通アクセスの問題は、課題は非常に大きいのかなというふうに思います。課題の中にもありました園内動線の円滑化であったり、施設の効率的な配置ということもありました。先ほど各他の委員からもご発言ありましたが、それを考える時に、やはり園内だけじゃなくて、園の外との関係性が重要になってくるのかなと思います。特に、一般車両での来園が多いということを考えますと、北陸自動車道の金沢西インター、それから国道8号線、金沢美川小松線、それからここが整備される時にはなかった海側幹線もございます。そこへのアクセスをどう考えていったらいいのかということが必要になってくるのかなと思います。園内の動線だけではなくて、その周辺或いは周辺アクセス道路との関係性を少し大切に配慮していく必要があるというふうに思います。そうした事が実現すれば、例えば、ストレスなく来園できて、ストレスなく退園できる、そういった施設にもなるのかなというふうに思います。今後の委員会の進展を十分関心を持って、私も参加させていただきたいというふうに考えています。以上です。

【鏝委員長】

はい。ありがとうございました。まだまだご意見はあると思いますが、お時間がきました。ちょっと今日は、このあたりでということになりますけども、私からも一言。昔、兼六園が明治時代に公園として使われるといった時に、茶店が50あったんですね。今14ですかね。少ないです。でも徽軫灯籠をシンボルとして、プロモーションしたのはその50の茶店の方々ということです。これ、今に至って多くの方を招いているっていうことになっています。民間活力を入れた形で、この公園を多くの方が来られるようになるっていうのも、そこが一つの味噌かなと思っています。

あと魅力として、外部の資源として白山への眺望っていうのもありました。こういったものも今回、背の高い施設をやっぱり整備するわけで、公園の地盤だけじゃなくて、施設の一部も利用して、そういった資源を公園の中に入れる公園と施設の一体とした形を良いかたちで計画できればなと思いました。それでは、今日は議論をここで一旦閉めたいと思います。事務局へお返しいたします。

6. 閉会